

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100313		
法人名	(株)イービーエーサービス		
事業所名	グループホームおおさとの憩		
所在地	山梨県甲府市大里町3375-1		
自己評価作成日	平成24年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成24年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設独自の運営理念を職員全体で共有し実行している。中庭に散歩したり、入所者様と家族が行事を通してふれあい、楽しい時間を共有している。ユニットに捉われず自由に交流し、職員や入居者が笑顔で生活している。庭には、畑や花壇を作り、季節折々の野菜や花を育て觀賞したりして生活を楽しんでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市郊外に広がる住宅地の中に、広々とした庭を囲むようにグループホームと介護付有料老人ホームの建物が併設している。庭は日々の散歩コースに活用され有料老人ホームの利用者とは「近所の関係」となっている。ボランティアとの交流は活発で、利用者の趣味や楽しみごとの指導者として関わっている。手芸・習字・俳句などの作品が壁に飾られたり、俳句は‘もくれん会’として地方紙の「文芸ひろば」に掲載され、利用者の活力と笑顔につながっている。調査時も習字の練習を終えた利用者が、朱墨が入った半紙を誇らしげに職員に見せていた。また会社はコンプライアンス委員会を組織し倫理法令遵守の意識を高めるだけでなく、職員の悩み事電話相談を設けるなど職場環境の整備を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームおおさとの憩

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、会社統一の理念と事業所独自の理念があり、身体拘束廃止委員会から介護の5カ条を皆の目のつくところに掲示し、朝礼時、職員で唱和し意識確認をしている。	理念は、会社統一の理念と事業所独自の理念があり、身体拘束廃止委員会から介護の5カ条を皆の目のつくところに掲示し、朝礼時、職員で唱和し意識確認をしている。	「笑顔の和・地域との輪・言葉の愛」というホーム独自の理念は、全職員で創りあげ、朝礼時に唱和している。何か問題があるとフロア会議・申し送り時に話し合いが持たれる。その際も理念に立ち戻り、全職員の意識を統一している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設の行事に地域の方々を招待して交流を深めている。	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設の行事に地域の方々を招待して交流を深めている。	地区の自治会には加入している。ホームは地域ボランティアの活動の場になっており、様々なグループ・個人が来訪している。また事業所の夏祭りに招待したり、サッカースポーツ少年団とのバーベキューなど積極的に交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や近隣の方々との関わりを大切にし、認知症の理解や支援方法等の情報の発信をしている。	地域の行事や近隣の方々との関わりを大切にし、認知症の理解や支援方法等の情報の発信をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月発行しているおおさと新聞の中に運営推進会議の実施日を入れて家族の参加を募る。入居者様も参加し意見交換をしている。家族会にも掛け、上がった意見を大切にして、進めている。	毎月発行しているおおさと新聞の中に運営推進会議の実施日を入れて家族の参加を募る。入居者様も参加し意見交換をしている。家族会にも掛け、上がった意見を大切にして、進めている。	2か月に1度、開催している。ホームの現状・職員の取り組みなど説明し、地域包括支援センターや地域からの情報を受け、情報交換をしている。利用者・家族の参加も毎回あり、出された希望・意見は反映している。それぞれが意見を出し合う双方向の会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当、地域包括支援センター職員と勉強会や連絡を密にして、情報共有し合い指導を仰ぎ交流を深めている。	市町村担当、地域包括支援センター職員と勉強会や連絡を密にして、情報共有し合い指導を仰ぎ交流を深めている。	市主催の研修会への参加や、ホームの現状を相談に行ったり、電話で伝えている。また、お便りや運営推進会議の議事録を届けるなど、連携を図る努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を持ち、入居者様のケアの見直しや身体拘束、言葉の虐待をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしておらず、自由に入出りが出来る様心掛けている。	身体拘束廃止委員会を設置し、毎月1回会議を持ち、入居者様のケアの見直しや身体拘束、言葉の虐待をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしておらず、自由に入出りが出来る様心掛けている。	会社組織全体で取り組んでおり、ホームでも繰り返し学習会が持たれている。言葉の虐待・スピーチロックは、その場で注意し合える土壌づくりがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コンプライアンス委員会や身体拘束廃止委員会、リスクマネジメント委員会を設置し、職員の認識を強化し研修や勉強会を実施している。	コンプライアンス委員会や身体拘束廃止委員会、リスクマネジメント委員会を設置し、職員の認識を強化し研修や勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外での研修を通じ知識の習得に励み、介護支援専門員と連携し必要性の可否について検討の場を設けている。	内外での研修を通じ知識の習得に励み、介護支援専門員と連携し必要性の可否について検討の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、改定時に問題点が残らないように説明している。	入居契約時、改定時に問題点が残らないように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は、年2回開催し家族の想いを反映出来る努力している。家族、来客者に職員の顔と名前が一致できるように、玄関に顔写真を貼りコミュニケーションを取りやすいよう努力している。	家族会は、年2回開催し家族の想いを反映出来る努力している。家族、来客者に職員の顔と名前が一致できるように、玄関に顔写真を貼りコミュニケーションを取りやすいよう努力している。	年2回の家族会や運営推進会議で家族の意見・要望を聞いている。玄関に職員の写真・名前を貼り家族が声かけしやすいような工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議にエリアマネージャが参加し、事業所の意見を吸い上げ運営に反映している。	月1回の全体会議にエリアマネージャが参加し、事業所の意見を吸い上げ運営に反映している。	日々の業務に関する要望・意見はフロア会議で全職員で検討し決定している。運営や備品に関する要望は、会社組織の上部に持ち上げ検討される。職員が意見を言える環境が作られている。エリアマネージャは月1回、社長は年2回は足を運び、意見を聞く機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来る環境作りをしている。 給与等に関しては、賞与の人事考課の整備をしている。	外部研修、内部研修への参加やスキルアップが出来る環境作りをしている。 給与等に関しては、賞与の人事考課の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が率先して研修に参加出来るように支援し、外部研修で学んだ事を内部での研修に落とし込み介護レベルの統一を図っている。	職員が率先して研修に参加出来るように支援し、外部研修で学んだ事を内部での研修に落とし込み介護レベルの統一を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者や社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。	地域包括支援センター職員、他のグループホーム管理者や社会福祉協議会職員との情報交換を通じ事業所のレベルアップに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に担当を決め本人、家族等の信頼関係の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。	入居者に担当を決め本人、家族等の信頼関係の構築に努め、安心して生活できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、入居者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係づくりに努めている。	入居時や介護計画の見直し時に家族の意見を聞き取り、入居者が抱えている不安などをサービスに取り入れ信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげ利用者に合ったサービスが利用できる様努力している。	担当職員・計画担当者がアセスメント及びモニタリングを行い、確実な課題分析をし自立支援に必要なフォーマル・インフォーマルなサービスにつなげ利用者に合ったサービスが利用できる様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来ることやしたい事を中心に共同生活住居を構築できるよう努力している。	利用者個々の生活動作から本人の気持ちに寄り添い、その方が出来ることやしたい事を中心に共同生活住居を構築できるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月御家族には、事業所内での生活状態をおおさと新聞にして、行事、連絡事項を盛り込み入居者の生活状況を伝えられるようにしている。又家族と共に支援している。	毎月御家族には、事業所内での生活状態をおおさと新聞にして、行事、連絡事項を盛り込み入居者の生活状況を伝えられるようにしている。又家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望を聞いて、外食、温泉、いちご狩り等地域とのつながりを持ち、利用者の趣味、趣向を取り入れ広く機会を提供している。	利用者の希望を聞いて、外食、温泉、いちご狩り等地域とのつながりを持ち、利用者の趣味、趣向を取り入れ広く機会を提供している。	長年通い続けた理髪店・すし屋に行ったり、墓参りなど一人ひとりの生活習慣を尊重して支援している。自宅地域の近隣の人や旧来の友人の来訪もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、行事食や中庭でのお茶会などして利用者同士が関わり合いを多くし共同生活が支え合える様支援している。	利用者同士がコミュニケーションを多く取って頂く様工夫し、行事食や中庭でのお茶会などして利用者同士が関わり合いを多くし共同生活が支え合える様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談援助に努め、他施設との連携の強化を図っている。	退居後も相談援助に努め、他施設との連携の強化を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者・家族に接する中で生活の希望・思いや意向をくみ取り、職員間で共有し介護計画に盛り込み利用者全員から「出来ることやしたいこと」等の希望を聞いて対応するよう努力している。その人らしく暮らせる様支援している。	入居者・家族に接する中で生活の希望・思いや意向をくみ取り、職員間で共有し介護計画に盛り込み利用者全員から「出来ることやしたいこと」等の希望を聞いて対応するよう努力している。その人らしく暮らせる様支援している。	ケアマネジャーが家族から聞き取ったものを基本に、全職員で日々の暮らしの中から意向を汲み取っている。把握が困難な人には、散歩中にゆったりと向き合う時間を作り、誕生日会の希望を聞くなどの工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人や家族から面談を通じ情報を収集している。又以前利用していたサービス事業所からの情報の収集にも努めている。	入居時、本人や家族から面談を通じ情報を収集している。又以前利用していたサービス事業所からの情報の収集にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議や介護計画見直し時に、担当職員・本人・家族の意見を介護計画に反映出来る様になっている。本人のADLに合わせ、サービスの見直しをして、サービスの追加、変更を行っている。	ケース会議や介護計画見直し時に、担当職員・本人・家族の意見を介護計画に反映出来る様になっている。本人のADLに合わせ、サービスの見直しをして、サービスの追加、変更を行っている。	介護計画は3か月に1度見直しているが、状況の変化に合わせて見直している。日々の利用者の心身の様子や介護の記録類は細かく記載されている。本人・家族・看護師・全職員の意見を反映して作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。ケア実践を評価し、次の計画プランに活かしている。	担当者がアセスメントや知り得た情報を共有し生活の中での様子を把握し本人の生活ペースを維持し、心身状態の把握に努めている。ケア実践を評価し、次の計画プランに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族の要望等に対応するよう努め、通所リハビリテーションや市、県のボランティア、包括支援事業所等、様々なサービスを組み込み、家族の協力を待ながら、その時、その時の必要なニーズに取り組んでいる。	入居者、ご家族の要望等に対応するよう努め、通所リハビリテーションや市、県のボランティア、包括支援事業所等、様々なサービスを組み込み、家族の協力を待ながら、その時、その時の必要なニーズに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設の行事に地域の方々を招待して交流を深めている。	運営推進会議で地域の行事予定を民生委員、地域包括、ボランティアの方々から情報を頂き積極的に参加し、施設の行事の地域の方々を招待して交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医は往診として月2回入居者の受診をしているが、地域の総合病院と連携協定書を結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心がけている。	内科医は往診として月2回入居者の受診をしているが、地域の総合病院と連携協定書を結び、緊急時の対応が的確に行えるよう心がけている。	希望通りのかかりつけ医に受診している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行し、受診結果に関する情報は共有している。会社の契約医師(月2回往診)を主治医としている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、様々な研修等に参加しスキルアップに努めている。ナースと情報を共有し医療分野において相談出来る環境をつくっている。早期対応を心掛けている。	介護職は、様々な研修等に参加しスキルアップに努めている。ナースと情報を共有し医療分野において相談出来る環境をつくっている。早期対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に対し、入院時の情報提供をできるだけ詳細に行っている。又入院者に対し定期的に様子観察する為に病院へ伺い情報交換している。	協力医療機関に対し、入院時の情報提供をできるだけ詳細に行っている。又入院者に対し定期的に様子観察する為に病院へ伺い情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを提供出来る環境づくりに努めている。	重度化に関し入居時に説明をし、ターミナル時には家族の意向を十分に組み入れ、適切なケアを提供出来る環境づくりに努めている。	契約時、看取りについて家族と話し合い、意思確認の書面を受け取っている。現時点で希望している家族がいることから事業所が出来る支援を見極め、対応方針の共有化を図っている。現場に即したマニュアル作りや医療の協力など看取りの流れは出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に消防署の協力により応急処置の研修を受けている。各居室に個々のマニュアルを掲示し緊急に活用している。	緊急時のマニュアルを作成している。また、定期的に消防署の協力により応急処置の研修を受けている。各居室に個々のマニュアルを掲示し緊急に活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、南消防署に依頼し、避難訓練を行っており、地域の方、民生委員、組長の方に声をかけ避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。火災通報装置を使い、通報訓練も実施している。	年2回、南消防署に依頼し、避難訓練を行っており、地域の方、民生委員、組長の方に声をかけ避難訓練の参加を協力して頂ける様依頼している。火災通報装置を使い、通報訓練も実施している。	南消防署の協力を得て年2回、避難訓練を行っている。昼の訓練時は敷地内有料老人ホームと合同で地域からも参加してもらっている。ホーム単独でも夜間を想定し訓練している。職員は訓練報告書を作成し、再点検している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の運営理念を共有し、虐待防止委員会やコンプライアンス委員会を設置し、会社全体で虐待の防止に力を入れ、職員全体でマナー研修をしその方の人格を尊重して心のケアに努めている。	施設の運営理念を共有し、虐待防止委員会やコンプライアンス委員会を設置し、会社全体で虐待の防止に力を入れ、職員全体でマナー研修をしその方の人格を尊重して心のケアに努めている。	利用者の身体状況やメンタル面の、今日の様子を見ながらありのままの生活が出来るよう、さりげなく支援している。ことに排泄の支援や言葉遣いは本人を傷つけないよう細心の注意を払っている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の担当職員がその方の思い、希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるよう支援し、自己表現を促しやすい環境づくりをしている。	入居者の担当職員がその方の思い、希望を聞いて誕生日や行事等で実施できるよう支援し、自己表現を促しやすい環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の思いや希望を大切に、自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。	入居者の思いや希望を大切に、自己表現をしやすいよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。入居者に職員がお化粧や整髪して生活に活力が出るよう努力している。	生活チェック表を作成し、毎日清潔保持に努めている。入居者に職員がお化粧や整髪して生活に活力が出るよう努力している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個人用の食器を用意し、配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなどその方の能力に合わせて支援し、献立表の記録は入居者が毎日書いている。	個人用の食器を用意し、配膳、下膳、食器洗いや食器拭きなどその方の能力に合わせて支援し、献立表の記録は入居者が毎日書いている。	身体状況に合わせた作業をしている。食事作りの一連の作業をしている利用者もいる。献立・食材は会社本部から届けられているがホームで一部は調達している。希望食・外食の機会も用意されており、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立があり、それに沿って食事の提供を行い、又行事などで入居者の希望を聞いて提供し、水分については日中・夜間時の水分、食事量をチェックをしている。	栄養士の作成した献立があり、それに沿って食事の提供を行い、又行事などで入居者の希望を聞いて提供し、水分については日中・夜間時の水分、食事量をチェックをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は実施して頂き、介助が必要な方については、職員が毎食後、口腔ケアを行っている。また、口腔ケアの内容についても、歯科医と連携をとり、口腔ケアでの意識の向上に努めている。	自分で出来る方は実施して頂き、介助が必要な方については、職員が毎食後、口腔ケアを行っている。また、口腔ケアの内容についても、歯科医と連携をとり、口腔ケアでの意識の向上に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄をしてもらう様支援している。昼間は、全員トイレで排泄し、オムツやパットの使用を減らせるよう全体会議で統一している。	排泄チェック表を作成し、入居者の生活リズムに合わせた時間にトイレ声掛け誘導をし、トイレで排泄をしてもらう様支援している。昼間は、全員トイレで排泄し、オムツやパットの使用を減らせるよう全体会議で統一している。	排泄チェック表を使用して、一人ひとりのパターンを把握し、さりげなく支援している。トイレ誘導を嫌がる利用者もいるが、傷つけない言葉かけに気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操の時間を定期的に行うことにより、便秘の防止に努めている。また食事内容、おやつ等工夫し便秘予防に努めている。	体操の時間を定期的に行うことにより、便秘の防止に努めている。また食事内容、おやつ等工夫し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り入居者の希望に沿った入浴に努めている。入浴時、足浴をしながら体を洗って浮腫対策している。夏、冬入浴内容を入居者に確認してもらいながら楽しんでいる。	できる限り入居者の希望に沿った入浴に努めている。入浴時、足浴をしながら体を洗って浮腫対策している。夏、冬入浴内容を入居者に確認してもらいながら楽しんでいる。	週2回、月・木を基本の入浴日としている。利用者の気持ちを尊重しその人に合わせた入浴支援をしている。入浴剤や柚子を入れたり、個人用のシャンプー・リンスを使うなどの配慮をしている。	本人のこれまでの生活習慣やその日の希望に合わせて、個別の入浴支援が出来る工夫がなされることを期待している。

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活状況に即した就寝をして頂ける様、寝る前にお茶を飲みながらテレビ観賞などして、介護者が就寝の介助に努めている。	生活状況に即した就寝をして頂ける様、寝る前にお茶を飲みながらテレビ観賞などして、介護者が就寝の介助に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が一元的に管理し、薬の内容については、全体会議や研修を通し、知識の習得に励んでいる。	看護師が一元的に管理し、薬の内容については、全体会議や研修を通し、知識の習得に励んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	サークル活動を充実させるよう会議で検討をしている。入居者の嗜好調査し、喜んで頂ける様、心がけている。	サークル活動を充実させるよう会議で検討をしている。入居者の嗜好調査し、喜んで頂ける様、心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の内容によりボランティアの方の受け入れで隣の施設と連携して、入居者が外気浴が多くできる様支援し、シフトの調整を図り、お風呂、いちご狩り、外食、出前を取ったりして希望に沿う様、努力している。	行事の内容によりボランティアの方の受け入れで隣の施設と連携して、入居者が外気浴が多くできる様支援し、シフトの調整を図り、お風呂、いちご狩り、外食、出前を取ったりして希望に沿う様、努力している。	日に1~2回、庭を散歩している。ホームの和風庭園は広く季節感に富んでおり、また敷地内の有料老人ホーム利用者とは近所付き合いとなっている。季節・月毎の行事は出来る限り希望に沿っている。家族会に語り、家族の協力・参加を働きかけたいと計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る入居者のみお財布を持ち、買い物や外出時に支払っている。その他の入居者は、施設が立替、物を買うという環境を提供している。	金銭管理が出来る入居者のみお財布を持ち、買い物や外出時に支払っている。その他の入居者は、施設が立替、物を買うという環境を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話出来る環境にあり、家族からの手紙、電話を取りついでいる。入居者の心身状況に沿って支援している。	電話出来る環境にあり、家族からの手紙、電話を取りついでいる。入居者の心身状況に沿って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や入居者の方々の手芸作品や俳句等を展示したり、野菜や花など植えて季節を感じてもらったり、テラスで過ごしたりしている。	行事の写真や入居者の方々の手芸作品や俳句等を展示したり、野菜や花など植えて季節を感じてもらったり、テラスで過ごしたりしている。	両ユニットの、玄関ポーチをつないだテラスはソファが置かれ、ゆったりとくつろげる空間となっている。居間には雛人形が飾られ、利用者の手芸作品・習字・俳句作品が展示されている。光が刺激とならないよう、天井の光り取りや、和紙を使った照明器具など注意が払われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前、ホールに長椅子を設置し、コミュニケーションを取れる空間をつくり共にテラスから畑や中庭の花々を見て癒し空間になるよう工夫している。	玄関前、ホールに長椅子を設置し、コミュニケーションを取れる空間をつくり共にテラスから畑や中庭の花々を見て癒し空間になるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものを置いたり、趣味の物を展示したりして生活に活気が出る様工夫している。家族の希望があれば、宿泊もできる体制になっている。	馴染みのあるものを置いたり、趣味の物を展示したりして生活に活気が出る様工夫している。家族の希望があれば、宿泊もできる体制になっている。	馴染みの家具やコタツを置いたり、自作の作品で壁を飾ったりと、本人の好みの部屋が作られている。居室への廊下は広くゆとりがあるため、プライバシーが守られている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(梅)	ユニット名(松)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、個人の部屋が認識が出来る様工夫している。安全に生活が出来るように共有部分の整理、整頓し気を配っている。	トイレ、浴室、個人の部屋が認識が出来る様工夫している。安全に生活が出来るように共有部分の整理、整頓し気を配っている。		